大学陶芸ゼミによるランプシェード

三島学園報

NO.15
2010.12

学校法人
三島学園

東北生活文化大学 | 東北生活文化大学短期大学部 | 東北生活文化大学高等学校 | ますみ幼稚園 | ますみ保育園

大学生活美術学科「MONUMENT FOR NOTHING Ⅱ」を終えて（講師 渡邊 圭介）

「会田誠を仙台に呼ぶ」と聞いた時のワクワク感は今でも覚えている。日本の現代美術界のビッグネームである。私が学生の頃、学生寮の自分の部屋のドアに氏の作品のポスターを貼っていた事を思い出す。まさか本人と一緒に仕事をすることになるとは思いもしなかった。そういう思いもあってか、今回のプロジェクトを振り返ってみて大変だったとか疲れたとかいう記憶は全くない。恐らく、参加した学生も同じ思いであろう。10月1日から24日の展示まで、参加学生達は途切れる事無く集中して作品制作に取り組んでいた。その結果、その他の参加大学の学生の作品と比べてもひけを取らない作品が出来上がった。会田さん曰く、「仙台に来て一気にクオリティが上がった」だそうだ。このプロジェクトを通して、参加学生達は大きな自信を得、また、大学の中に籠るのではなく積極的に外の世界へ出て行く事の重要性を改めて認識したようである。

高校 学園創立110周年を祝う

平成22年10月30日（土）、学園創立110周年の記念行事として「時の蘇生」柿の木プロジェクト in SEIBUN The Harvest of KAKI と創立110周年を祝う式典が行われた。

浅尾豊信理事長から学園の歴史について、また光井正校長より今まで本校にご功績のあった方々に感謝の意を込めたご挨拶をいただいた。その後、高校にご尽力ご支援を賜った方々、並びに全国大会出場を果たした部活動顧問に感謝状と功労賞を贈呈し、これまで三島学園の教育活動においてご尽力いただいた皆様への感謝の気持ちが心から込み上げてくる式典となった。

セレモニーでは100周年時より取り組んできた柿の木プロジェクトを通して生徒たちが改めて平和の意味を考え「平和を思う心」を発信続ける姿に深く感動した。今回ご臨席いただいた皆様とは在職当時の思い出話や、現在の生文大高校の様子などを語り合い、楽しく過ごすことができた。

「時の蘇生」柿の木プロジェクト in SEIBUN The Harvest of KAKI

10月30日（土）「時の蘇生」柿の木プロジェクト in SEIBUN The Harvest of KAKI が行われた。プロジェクトを立ち上げられた宮島達男先生、歴代の特活部長、当時の生徒会長の飯田亜以さんをお招きした。柿の木広場でのセレモニーでは柿の収穫や10年前に埋めたタイムカプセルを掘り起こした。体育館では宮島先生の講演、生徒全員で作った千羽鶴の披露、「HEIWA の鐘」の合唱、と大変厳かな雰囲気で終了した。

第1回 SEIBUN アートコンペティション

学園創立110周年、大学生活美術学科創設45周年を記念し、第1回 SEIBUN アートコンペティションが開催された。これは従来行われていた高等学校主催による「中学生美術コンクール」を発展させ、新たに高校生を対象に加えた、高等学校と大学共催の事業である。総計437点の応募があり、特別審査員の村田朋泰氏をお迎えし、厳正な審査の結果、大賞（中学生の部・高校生の部各1点）の他、各賞が決定した。11月には上位入賞者らによる展覧会が東京エレクトロンホール宮城で開催され、多くの来場者を数えた。

中学生の部
（浦戸中1年 鈴木 敬）

高校生の部
（生文高1年 星 季実子）

中国高校生との交流会

中国高校生21名、引率教員、通訳の方々を全校生徒で出迎え熱烈歓迎！ 日本武道の剣道、ダンス部によるパフォーマンス、全国大会出場をしている少林寺拳法も演武を披露した。さらに、外部からすずめ踊りの団体の方々をお呼びして、中国高校生も一緒に楽しく午前中を過ごした。午後からは、日本文化の茶道、華道を体験してもらった。その後、生徒会や語学部の生徒たち、先生方総勢50名余りで交流会を開いた。言葉は違えど高校生達は、片言の英語や覚えてきた日本語、身振り手振りなどで通じるものがあったようだ。

将来を担う若者が自国にとらわれず、世界視野の中で見聞を広め、大きく成長することを願いたい。我校の生徒達も堂々と挨拶をしていた中国の高校生を見て、あらためて感動を覚えたようだ。

太極拳を披露する中国高校生

理事長・学長浅尾豊信先生が秋の叙勲の栄に浴されました

【御祝のメッセージ】

副理事長　菅　福彦

本学園理事長・大学及び短期大学部学長　東北大学名誉教授　理学博士　浅尾豊信先生は、本年秋の叙勲に際し、栄えある瑞宝中綬章を受章されました。学園創立110周年に当たる今年、昨年の前理事長池上雄作先生に続き叙勲の慶事が続きましたことは、学園にとってもまことに光栄なことで、心よりお祝いを申し上げます。

浅尾先生は昭和7年3月山形市のお生まれで、昭和25年に山形一高(現山形東高校)から東北大学理学部に進まれ、有機化学を専攻されて故野副鉄男東北大学名誉教授に師事し、昭和34年3月に理学博士号を取得された後、同大学助手・助教授を経て、教養部教授・理学部教授を歴任されました。この間、七面鳥の大量死を引き起こしたカビ毒アフラトキシン類の構造決定や、非ベンゼン系芳香族化学の分野における精力的な研究の傍ら、東北大学教養部長、同情報処理センター長、教養部廃止後に大学教育研究センター長も務めておられます。また、平成7年3月東北大学定年退官後も、岩手大学において教壇に立たれるなど、我が国の化学分野に於いて教育及び研究に、一筋に尽力されたご功績が根幹となってこの度の栄誉に至ったとうかがっております。

本学園とのご縁は、平成15年4月に、前理事長池上雄作先生の要請に応えて、本学園の大学の非常勤講師に就任されると共に、理事・評議員に就任されることにより始まり、平成19年7月大学・短期大学部学長にご就任、翌20年7月には理事長に推挙され、ご縁は益々深いものとなりました。理事長・学長ご就任後、平成20年8月に大学創立50周年記念式典を挙行、翌21年度には短期大学部の財団法人短期大学基準協会による第三者評価において適格の認証を得たほか、大学・短大と高校間の連携強化や短大の定員割れ対策のための入学定員変更など種々の改革に取組み、さらに三島学園産学連携協議会を発足させて学生の就業力育成や就職支援体制の強化にも成果をあげられました。

全国の多くの私立学校が厳しい経営環境下にある今日、今後とも一層ご健勝にて、豊富なご経験を活かして学園の将来を導いてくださるよう願って止みません。

寸　言

「食」について　【ますみ保育園　園長】　齊藤　美和子

保育園では、健康な生活の基本である、発育・発達を支えるための「食」についてさまざまな配慮と工夫を進めている。

ますみ保育園の食育計画については、仙台市として作成した食育計画を受けて、作成した。今年度は特に、年間の活動計画や月の指導計画との連動性をもたせ、栄養士を中心として、全職員で保育と食育を進めていくことを大切にしている。

■地産地消に配慮した食材

食材に関しては地域の八百屋、肉屋、魚屋から新鮮なものを届けてもらっている。

冷凍食品をなるべく使用せず、納品業者と信頼関係を作り、子ども達に「旬」の食材を知らせている。

■菜園活動

春から子ども達と話し合い、きゅうり、なす、オクラ、さつまいも、トマト、枝豆などを植え、水やりや草取り、収穫をし、これらを使用したクッキングを楽しんでいる。

■クッキング

夏は、きゅうりとなすの漬物、夏野菜カレー、トマトサラダ、秋には、さつまいものスイートポテト、芋煮会等年齢に応じたクッキングを取り入れている。

■保護者と共に

メニュウの紹介や毎日の給食の展示をして感想を聞いたり、収穫や食事の様子を写真で紹介している。また、懇談会等で朝食の大切さや離乳食の進め方を話し合って、食に対する意識の向上を図っている。

■楽しい食事時間

むかしは、「給食の先生が一生懸命つくったんだから残さず食べなさい。」こんな言葉がけをしていたこともありましたが、今は、どこの保育園でも食事時間は、本来楽しいもの、食事は、楽しく食べるものとして、無理強いすることはない。

ますみ保育園でも、食事時間を待ちどおしく思い、わくわくする心や「これなあに」などといった食べ物への関心や食べる意欲を育てることを重視し、栄養士が巡回指導している。

■地域への啓蒙

地域の子育て家庭を対象に保育園の給食試食会を11月に開催し、おいしく、簡単に作れる給食を紹介したり、栄養士に質問したり、レシピをもらって、有意義で楽しいひとときを過ごした。

このように、ますみ保育園では、「食の楽しさ、大切さがわかる子ども」を、食育の目標として掲げ、日々の食事、給食が豊かで充実したものとなるよう努めている。

大学・短大・三島学園産学連携協議会共催講演会

藤巻幸夫氏「全ては顧客視点」

大学やさまざまな教育現場で、教育のあり方について評価が問われている今日、本学園においても学生の就職をいろいろな角度から支援する組織として三島学園産学連携協議会が今年6月に発足した。この産学連携協議会と大学・短大との共催により、去る7月14日(水)午後1時から1時間半に亘って100周年記念ホールで500人を越える本学学生教職員を対象に藤巻幸夫氏による講演会が開催された。藤巻幸夫氏は、いままで(株)福助の老舗復活を遂げた「再生請負人」として知られているが、(株)セブン＆アイ生活デザイン研究所代表取締役社長、(株)イトーヨーカドー百貨店取締役執行役員などを歴任し、スーパーの改革に取り組む常識を打ち破った「カリスマバイヤー」としても有名である。現在は(株)藤巻兄弟社　代表取締役社長に就任しており、衣食住トータルの新しいライフスタイルの提案や日本をキーワードのブランド作り、アパレルを中心とした空間プロデュース、ホテル・カフェの運営など幅広く活躍されている。

今回は、このような藤巻氏の豊富な経験を踏まえて「全ては顧客視点―今日本に求められるブランディング、プロデューシング、マーケティングとは―」というテーマで講演が行われたが、講演終了後も藤巻氏に詰め寄る学生も多く、学生にとっては社会人として就職の現場で活躍し成功するためには“いかに考え、いかに行動するか”ということで大いに参考になった講演内容だった。

この講演会を契機に、9月には山梨学院大学今井久教授の「社会人基礎力養成の実践・事例」というテーマで教職員を対象に講演会が開催され、10月からは就業力支援特別講座として短大で「コミュニケーション演習」、11月からは大学・短大で「キャリアブリッジ講座」を開講している。今後、大学または短大全体で学生の就職支援の必要性を再認識するとともに、教育課程の一貫として初年時教育も含めた社会人基礎力や就業力向上を目指す本学独自の取組がさらに推進されることを期待したい。

三島学園公開講座　東北生活文化大学講演会

横尾忠則氏「生活とアート」

三島学園公開講座・東北生活文化大学講演会が、学園創立110周年記念事業の一つとして、美術家の横尾忠則氏を迎え、平成22年11月19日(金)13時から開催された。当初、6月頃の開催を予定していたが、双方のスケジュール等の関係で紅葉の美しいこの時期となった。

横尾氏は1936年兵庫県西脇市生まれ。グラフィックデザイナーとして活動後、1980年7月にニューヨーク近代美術館で開催されたピカソ展に衝撃を受け、その後画家宣言。以来美術家として独特なモチーフと多彩な表現で様々な作品を制作。ヴェネチア、パリ、サンパウロほか各地のビエンナーレに出品、カルティエ現代美術財団での個展や、毎日芸術賞、日本文化デザイン大賞など国内外の芸術賞を多数受賞。2001年には紫綬褒章受賞。執筆や著書も数多く、2008年「ぶるうらんど」の著作で第36回泉鏡花文学賞を受賞するなど、多才な活動、実績は挙げれば切りが無い。

会場の本学100周年記念ホールは、大学生活美術学科の学生を中心に、家政学科、生文大高生徒約100名、一般聴講者約85名、教職員と、予備席を含め約500席が満席の盛況であった。

「生活とアート」という演題で始まった講演は、まえおきとして20分程の横尾氏の話の次に、堅苦しいのは苦手、自然体でいきたいという本人の希望で質問対談形式の形で進められた。質問者は生活美術学科の森敏美教授と進行役を兼ねた、横尾氏招聘と講演実現に尽力された北折整教授が務めた。その後、学生、一般の聴講者からの質疑も壇上で演者と対話するというユニークなものであった。

冒頭の草津温泉に行った時のバスの中で会った老夫婦の様子からの「見ることと、眺めること」との話。「今の若い人は肉体を蔑ろにしている。自分の体を通して知る事は創作に結びつく」。「学びとは真似る事であり、絵を描く事＝模写であり、自分は現代を模写している」。「死＝宇宙の中に生があり、死から生に向かって、自分の中にある不透明なものを創作によって殺してゆく」。などなど、丁寧で解り易く、しかも刺激的で興味の尽き無い話に予定の一時間半は瞬く間に過ぎた感じであった。

この講演を通して、僅かな時間ではあったが、横尾忠則氏と時間を共有できた事は、嬉しく、貴重で、大変有意義な講演会となったのではないだろうか。

第1回「高校生による服飾文化研究発表会」

平成22年10月23日(土)に、本学百周年記念ホールにおいて、第1回「高校生による服飾文化研究発表会」が開催された。本研究会は、高校生が衣生活に関する調査研究の成果や制作品を発表するもので、今回は8件の制作品の発表があった。そのうち、「服飾文化大賞」を獲得したのは東北生活文化大学高校3年生たちによる「甚平」であり、「服飾文化賞」には松山高校3年生たちの「ジャケットとワンピース」と東北生活文化大学高校1年生たちの「4 you memories!」が選ばれた。

家政学科 ホワイトリボン運動

服飾文化専攻の学生有志が、ホワイトリボン運動(開発途上国における妊産婦の命と健康を守る運動)関連イベント「to Mothers －みちのく－」に参加した。学生達は、アフリカで作られた布を用いてモードな洋服・服飾雑貨(ワンピース、シャツ、バッグなど)を制作した。これらは、12月1日にせんだいメディアテークで開催された本イベントのチャリティオークションで販売され、収益は全てザンビアの妊産婦に寄付される。

大美 ワインラベルコンペ

山梨の蒼龍葡萄酒と仙台の晩翠画廊による、新種ワインのラベルデザインコンペとその展覧会が行われた。(5/18～5/23　晩翠画廊)

入選は次の通り。庄司こずえ(生活美術学科4年)、大槻香苗(同3年)三浦さやか(同2年)、荒木香澄(同1年)、伊勢田美穂(卒業生)。

なお、ワイン新種「巨峰」のラベル1位に選ばれた荒木香澄さんのデザインは既に商品化されている。取り扱いは、みやぎ生協直営39店舗。

第2回シルクスクリーン国際版画ビエンナーレ仙台巡回展

平成22年10月17日(日)～24日(日)青葉画荘2Fギャラリー青葉にて、シルクスクリーン印刷用メッシュクロスを扱うNBC(株)がシルクスクリーンに限定した国際的な公募展で宮城県初となる巡回展であり、日本を含む18ヶ国からの入賞入選100点は、スクリーンプリントの魅力、可能性を十分に堪能できる展覧会であった。大学生活美術学科4年大見川梨乃、3年二瓶知美、横山みくの入選作品も展示され、来場者数は、850人であった。

学生・生徒の活躍

大学・短大

平成22年度 JCOMMデザイン賞
(仙台市内及び近郊8大学交通情報マップ)
【JCOMM賞】生活美術科3年佐藤詩織
蒼龍葡萄酒ワインラベルコンペティション
(晩翠画廊企画)
【巨峰A賞】生活美術科1年荒木香澄
【巨峰B賞】生活美術科2年三浦さやか
【デラウエアA賞】生活美術科3年大槻香苗
【デラウエアA賞】生活美術科4年庄司こずえ
「住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2010」
【支部長賞】生活美術科4年大場志穂
西脇市制5周年記念　第8回全国公募西脇市サムホール大賞展
【優秀賞】生活美術科2年筒井偲乃婦
2010年全国はがき版画フェスティバル
【優秀賞】生活美術科3年平聡美
【佳作】生活美術科2年平岩大介
第60回記念モダンアート分散展
【入選】生活美術科4年角田沙織

高校

●少林寺拳法部
○第59回 宮城県高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技
【男子自由組演武・初段の部／第1位】嶺岸和貴・本宮悠斗
【男子規定組演武・級の部／第2位】沼澤慶・鎌田充志
【規定組演武・級の部／第3位】加藤豪・鈴木健斗
【女子規定組演武・級の部／第3位】本宮絵梨菜・菊地優菜
【男子単独演武・段外の部／第3位】沼澤慶
【女子単独演武・段外の部／第3位】本宮絵梨菜
【男子団体演武の部／第3位】
男子総合【第3位】
○平成22年度 東北高等学校少林寺拳法選手権大会
【男子初段 組演武の部／第4位】嶺岸和貴・本宮悠斗
【女子段外単独演武の部／第5位】本宮絵梨菜
【女子規定組演武の部／第6位】本宮絵梨菜・菊地優菜
○第9回 宮城県高等学校少林寺拳法新人大会
【男子自由組演武の部／第3位】加藤豪・鈴木健斗
【男子規定組演武の部／第3位】沼澤慶・鎌田充志
【男子規定単独演武の部／第3位】沼澤慶
【女子規定組演武・級の部／第3位】本宮絵梨菜・菊地優菜
男子総合【第3位】
○平成22年度 仙台市武道まつり 少林寺拳法演武大会
【団体演武 一般の部／第1位 最優秀】
【高校 男子 初段の部／第2位 優秀】加藤豪・鈴木健斗
【高校 男子 級の部／第2位 優秀】沼澤慶・鎌田充志
【第3位 優良】吉岡謙・阿部遥夏
【中学高校 女子 級の部／第1位 最優秀】本宮絵梨菜・菊地優菜
●ソフトボール部
○第59回 宮城県高等学校総合体育大会ソフトボール競技【第3位】
○第37回 仙台市高等学校ソフトボール選手権大会【優勝】
○平成22年度 宮城県ソフトボール総合選手権大会 高校の部 優勝
○平成22年度 宮城県高等学校 新人大会ソフトボール競技【第1位】
○第5回 東北高等学校女子ソフトボール選抜大会【第3位】
●バレーボール部
○仙台市民総合体育大会【3位】
●バスケットボール部
○第32回 宮城県高等学校バスケットボール大会【第4位】
●陸上競技部
○宮城県民体育大会 陸上競技会 女子100メートル
【第1位】関真彩
●弓道部
○第26回仙塩地区高等学校秋季弓道大会 種目 近的女子個人競技
【第3位】鎌田のぞみ
●美術部・デッサン部
○全国高等学校ファッションデザイン選手権大会【入賞】
○第2回全国高校生観光甲子園【日本観光協会長賞】
○第2回全国理容美容学生技術大会
理美容学生フェスタ2010（ヘアデザイン画部門）【敢闘賞】
○第28回泉・黒川地区美術展
【泉・黒川地区美術展美術部会長賞（大賞）】岩渕朋恵
【宮城県美育研究会長賞（準大賞）】大宮愛未
【優秀賞】11点
【奨励賞】15点
【特別賞】6点
○東北工業大学主催 第4回 東北の建築を描く展
【学長賞（準大賞）】佐々木莉央
【特別賞】吉野奈月
○全国地域安全運動 防犯ポスターの部
【最優秀賞】児島楓
●商業科
○平成22年度 千葉商科大学商経学部主催「こんなビジネスやってみ大賞」
【特別賞】尾形雅文・工藤大規
○平成22年度 宮城県高等学校 商業実務総合競技大会
ワープロ部門【第2位】
ワープロ部門個人【第3位】及川洋平
○日本情報処理検定協会主催 創立25周年記念文書デザインコンテスト
【最優秀デザイン賞】工藤大規
【審査員特別賞】飯塚菜摘
●生活文化コース
○東北生活文化大学家政学科主催「第1回高校生のための服飾文化研究発表会」
【服飾文化大賞】
【服飾文化賞】
●表彰者
○平成22年度 ソフトボール専門部
【功績選手賞】三塚凪瑳・土井和香奈
○第37回 仙台市高等学校ソフトボール選手権大会
【優秀賞】津田幸子・福原千尋
○平成22年度 高体連バレーボール専門部
【優秀選手賞】丸山美紗・佐藤彩夏・清水枝里子
○第32回　仙台市私立高等学校女子バレーボール秋季大会
【サーブ賞】佐藤嘉織
○宮城県高等学校野球連盟
【巧労賞】児玉光
○宮城県高体連弓道専門部
【巧労賞】吉田沙綾
○税に関する高校生の作文
【仙台北税務署長賞】清水凜

短大 宮坂きよの教授短期大学教育功労者表彰

本学の宮坂きよの教授は、平成22年10月22日、本学では初の短期大学教育功労者として文部科学大臣より表彰された。

宮坂教授は、昭和45年三島学園女子大学家政学部家政学科を卒業、同年三島学園女子大学家政学部家政学科の助手として採用された。昭和50年に助手として三島学園女子短期大学家政科に移られてから、講師、助教授、東北生活文化大学短期大学部准教授を経て、平成19年教授に昇任された。

長年にわたり、本学の被服教育の中心である被服構成学、衣生活実習を担当され、また、家庭科の教職課程にも携わられ、多くの学生を育ててこられた。

平成19年度から21年度までは学科長を務められ、この間、仙台平の研究をまとめた著書「仙台平とサロン・デ・モード　－学校法人三島学園史料室から－」を出版、始まってまだ日の浅い子ども生活専攻を軌道に乗せるのに力を尽くされた。

引続き短大教育、短大運営へご尽力いただいている。

生活美術学科 渡辺研究室よりiPadアプリケーションリリース

9月末日、iPad向けのアプリケーションをw_lab名義でリリースした。簡単に言えば、同じネットワーク上に居る人々でキャンバスを共有してお描きが出来るというアプリケーションである。今や個人のアイデアを簡単に世界中に送り出す事が出来る時代である。もちろんその反応も世界中から返って来る。先日、MITの卒業生と思われる人からアプリについての意見がメールで送られて来た。まだまだやるべき事は多そうだ。

高校 生文祭

今年の高校文化祭は「生文祭'10～ミチあふれる時の輪～伝統の道、満ちた今、道なる明日へ」というテーマのもと、9月4日(土)5日(日)に開催された。今年は学園創立110周年という節目の年でもあり、記念行事としてパフォーマンス集団「白A」のライブが行われた。ここ数年文化部の活躍がめざましく、ステージの発表はもちろん作品展示、発表も例年にない充実した内容であった。また、保護者の方々や町内会の方々の参加もいただき、賑わいあふれる2日間であった。

阿部陽子 10 minutes コンサート

今年度7月より、短期大学部阿部陽子講師が'10 minutes コンサート'と銘打ち、短期大学部学生及び教員に向けてコンサートを行っている。

学生に生の演奏に触れ、音楽(ピアノ)の楽しさを知って欲しい、との思いからの開催である。一回目の7月にはショパン生誕200年にちなみ、「エチュード第3番(別れの曲)」・「ノクターン第20番(遺作)」、二回目の9月にはショパンの「幻想即興曲」・シューマンの「トロイメライ」、三回目の11月にはドビュッシーの「アラベスク第一番」・「亜麻色の髪の乙女」・「小さな黒人」がそれぞれ演奏し披露された。

学生、教員ともに大盛況で、今後も2ヶ月ごとに開催予定である。

短大 藤本このみ第19回河北工芸展 入選

短大副手の藤本このみさんは、第19回河北工芸展(河北新報社、河北文化事業団、(財)宮城県文化振興財団主催)、染織の部において、作品「composition」で入選を果たした。作品は平成22年10月22日から27日、仙台メディアテークにおいて展示された。

この入選は今年6月の第36回東北現代工芸美術展染織の部での河北新報社賞に続く連続受賞で、快挙である。

近況報告

東北生活文化大学

家政学科

今年度のオープンキャンパスは6月26日、7月24日、8月8日および10月23日に開催された。各専攻の紹介・施設見学に加えて、服飾文化専攻による「ピンクッションつくり」・「コースターつくり」、健康栄養学専攻による「食生活チェック」・「健康チェック」の体験講座が実施され、参加した大勢の高校生および保護者の方々の好評を博した。特筆すべきは10月23日に同時開催された服飾文化専攻による初の企画である「高校生による服飾文化研究発表会」で、8つの高校生グループによる意欲的な研究発表が披露された。

また2年生の研修旅行として、服飾文化専攻では9月14日～17日の日程で神戸・大阪方面へ赴き、「神戸ファッション美術館」、「国立民族学博物館」等での研修を実施した(写真)。健康栄養学専攻では8月9日に「みやぎ保健企画セントラルキッチン」での研修を実施して、大型機器を使用した調理システムとその運営についての理解を深めた。

生活美術学科

今年6月から11月にかけて生活美術学科では、学生の活躍は顕著であった。第60回記念モダンアート分散展入選や第10回デザイングランプリTOUHOK最優秀賞、東北地区協議会会長賞、住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2010学生プランニング部門支部長賞、西脇市サムホール大賞展優秀賞、蒼龍葡萄ワインラベルコンペで特賞を含む4人が入賞。6月からは、現代美術家の会田誠氏と学生の共同制作MONUMENT FOR NOTHINGⅡがスタートした。渡辺圭介講師が教員として学生を取りまとめ、10月1日から22日に卸町で段ボールによる作品を制作した。23、24日の大学祭期間中には、卸町ART FESTA 2010にて公開制作され多くの観客が訪れ大盛況であった。その後、東京でも公開制作をおこない、後に森美術館での展示も決定している。大学祭での学内コンクールでは、ゲストの各画廊の方々も授賞式に見えられ、学生に画廊賞が贈られた。また現代アニメ作家の村田朋泰氏に審査委員長をお願いし、第1回SEIBUNアートコンペテションを高校と共催した。11月12日から14日まで、高校生、中学生の佳作が展示された。11月19日には、横尾忠則氏の講演会が、生活美術学科主催で学園創立110周年事業として開催された。

東北生活文化大学短期大学部

短期大学部は、今年度から2専攻の定員が変更され、生活学専攻40名、子ども生活専攻60名となった。また、生活学専攻では来年度から新たに「フードエンタテイメントコース」が設置され、より幅広く学べる体制が整いつつある。短期大学部では、2つの専攻ともに免許・資格取得のための学外での実習を行なっているが、「生活学専攻」では、「中学校二種免許状(家庭科)」取得のために、2年次の学生2名が、5月から3週間の教育実習を行った。一方、「子ども生活専攻」の2年次の学生は、「保育士」資格取得のために、5月下旬から7月上旬にかけて保育所での実習(10日間×2回)と、7月下旬から10日間の児童福祉施設での実習の合計30日(約6週間)の実習を行った。また「幼稚園教諭二種免許状」取得のために、10月中旬から4週間にわたり幼稚園教育実習を行った。合計10週間という実習を経験することで学生は一回り大きく成長して短大に帰ってきた。今後は、学生たちがこれらの免許・資格を生かして社会に出て活躍していくことを期待したい。

東北生活文化大学高等学校

高等学校は現在1,200名を超える生徒が勉学に、部活動に充実した学校生活を過ごしているが、特に本年度は学園創立110周年の記念すべき年にあたって、生徒諸君の華々しい活躍が顕著な年となった。少林寺拳法部、バドミントン部、ダンス部が全国大会に出場し、「ファッション甲子園」には2チームが全国出場、神戸で開催された「観光甲子園」には美術コース生徒が初めて全国出場を果たし、優秀賞を受賞した。個人でも商業科の生徒が簿記コンクール全国大会出場や日本情報処理検定協会主催文書デザインコンテスト最優秀賞、千葉商科大商経学部主催「こんなビジネスやってみ大賞」特別賞を受賞するなど、幅広い活躍が目立った。また生徒会が取組んでいる内容が「気候チャンピオン」という温暖化対策のイベントに宮城県代表として結実し、生徒会長が東京で全国発表もした。さらに今後は女子ソフトボールが県新人大会に優勝し、全国選抜大会出場、女子バレーボールが全国私学大会出場が予定されている。

この節目の年は、本校の特色ある行事の一つである『時の蘇生』柿の木プロジェクトin SEIBUN(『平和を想う日』)開始して以来丁度10年に当たり、「収穫祭」を行うとともに、当時埋めたタイムカプセルを掘り出すイベントを実施し、創立110周年に華を添え、さらに創立100周年から10年間にわたって高等学校の教育活動にご尽力いただいた関係各位に感謝状を贈呈できたことは高等学校にとって記憶に残る一年となった。

ますみ幼稚園

「楽しく やさしく たくましく」を目標達成のスローガンとしてスタート以来、各行事、園外保育、日常保育の中で実践に努めてきた。特筆されるものとして、一学期の親子遠足・親子体操・夏祭りさらには二学期の運動会があり、その行事を通し子どもたち一人ひとりが自分の持つ力以上のものを発揮した。喜び、協力、思いやり、粘り強さ等が養われたことは言うまでもない。他に園外保育の交通公園・野草園・天文台・動物園・グランディ21等での活動で自然との触れ合い、人との関わりの中で人間形成の基礎となる力を育むことができたと考えている。体操教室・サッカー教室においてはたくましい心身の育成、国際化に向けた英会話では今後の日本人のあり方等々、未来を担う資質・能力の基礎を培うことができているものと考えている。他には、短大・生文高との連携、教育実習生の積極的受け入れ、保育園との交流、中学・高校の職場体験の場の提供等、やはり人との関わりを重視した保育を展開している。

園外保育(八木山動物公園)

11月1日には次年度の入園者の面接を行った。27名が入ることになり、82名でスタートする見込みである。しかし転勤等により多少の増減があるものと考えられる。只今は発表会に向け職員・園児共々成功を期して全力で取り組んでいるところである。

お泊り保育
(キャンプファイヤー 蔵王自然の家)

ますみ保育園

子どもたちは、散歩が大好きである。

運動会という大きな行事を終え、一段とたくましく成長した子どもたちは、晩秋の自然の中を「虫を探したい」、「木の実や落ち葉を集めたい」と、それぞれの思いや期待を抱きながら散歩に出かけている。

今、幼児や小学生の体力の低下が問題となっている。しかし、ますみ保育園の子は、目の前の大年寺山や野草園、愛宕神社、国道286号線沿いの並木道等元気いっぱい歩き、季節の変化を肌で感じている。色づいた木の葉に感動し、大きなバッタに驚き、野原をすべって遊び、子どもたちは、自然のおもしろさ、不思議さ、美しさを身体全体で楽しんでいるのである。自然の中には、保育士が工夫した室内の環境にはない魅力があり(好奇心や発見がたくさんあったり、子供同士のかかわりに広がりがみられたり等)、子どもたちの心身の成長に大きなエネルギーを与えているように思われる。

又、ここ数年、身近にある恵まれた自然を生かした保育を希望して入園してくる家庭もある。今後も、ますみ保育園の保育目標である「丈夫で体力のある子ども」「よく遊ぶ子ども」「感性豊かな子ども」「思いやりのある子ども」を念頭において、自然とのふれあいをとおして、子どもの健やかな育ちを大切にしていきたいと考える。

子育て・家庭支援センター
のびのび

親子でのびのび
(月・水・金の施設開放プログラム)

◎開催計画：毎週月・水・金曜日
午前10時から12時30分

◎内　　容：支援センターを中心に学園内を開放します。
センター内でおこさまと遊んでいただいたり、
季節の草花を探しながら散歩をしていただけます。

センターでは、専任の保育士がみなさんをお待ちしております。
子育てに関することなど、一緒に考えていきましょう。

■申込・問い合わせ先　子育て・家庭支援センター事務局 TEL.022-272-7511

理事会の主なる議題

■ 平成22年10月16日(土)　百周年記念棟2階会議室

○ 私学振興・共済事業団に追加担保差し入れの件
○ 学び直し学習支援室要項制定の件
○ 横山征次氏に短期大学非常勤講師を委嘱する件
○ 百周年記念誌刊行について
○ 学園創立110周年記念行事実行案について

誌上ギャラリー

「KOZUZUZU−」

（学内コンクール最優秀賞受賞作品／ミクストメディア）

大学・生活美術学科4年　庄司こずえ

私の作品の中には、必ず自宅で飼っているメス猫の「クロ」が登場します。きっかけは命に関わる重い病に2度もかかったことでした。それでも病を乗り越え、今でも懸命に生きている姿を表現したく、そして見ている人たちに感じてもらいたくモチーフとしています。この作品で使用しているクギ、針金、廃材など、固くて丈夫な素材を張り合わせコラージュすることで「生命力」を表現しました。

学校法人 三島学園 学園報 第15号　平成22年12月発行　三島学園広報委員会編集

学校法人　三島学園　〒981-8585　仙台市泉区虹の丘1-18　TEL.022-272-7511（代）　FAX.022-2727516
［URL］http://www.mishima.ac.jp　［E-mail］hojin@mishima.ac.jp

Paper from responsible sources FSC™ C005944
VEGETABLE OIL INK
この印刷物は適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。
印刷／笹氣出版印刷株式会社